


 書評

BJ Sadock, VA Sadock 編/融道男, 岩脇淳監訳

カプラン臨床精神医学ハンドブック 第2版

DSM-IV-TR 診断基準による診療の手引き

佐藤光源

長らく大学で「精神医学」の講義を担当してきたが、毎年の講義内容を見直すさいに必ず注意していたのが Kaplan HI & Sadock BJ 著「Comprehensive Textbook of Psychiatry」(通称 CTP)であった。その最新版はアメリカを中心とする精神医学の現況を知るのに有用であり、項目によっては第1版(1967)まで遡って見直すことも少なくなかった。しかし、それは分冊された膨大な内容であり、手軽に読めるものとは言いがたい。その Synopsis も世界中で読まれて好評であったが、そのポケット版が Sadock BJ, Sadock VA 著「Kaplan & Sadock's Pocket Handbook of Clinical Psychiatry」である。日常の診療場面で手軽に参照できる実践的なガイドブックを目指して作られたものであるが、その今世紀初めての改訂版が第3版の本書(2001)であり、融道男, 岩脇淳両氏によって注意深く監訳されている。両氏は第2版(1997)も監訳しており、それは好評のうちに第4刷まで増刷された。

第2版と読み比べてみると、最近4年間の新しい情報が多く取り入れられているのは言うまでもないが、一覧表を増やして使いやすくする工夫を凝らしているのが目立つ。内容は DSM-IV とその text revision(DSM-IV-TR)に準拠したものであり、精神医学の広領域をカバーしている。今回の改訂で特に目をひくのは、治療面で新世代の抗精神病薬や抗うつ薬の臨床指針、薬物相互作用などを盛り込んだほかに、精神療法の項目の紙数を増やして治療方法の選択肢を増やして整理していることである。臨床検査と画像診断の充実にも工夫がみられる。しか

し本書の特徴は、精神科面接から始まり精神医学的現症の診察法、DSM-IV-TR による診断分類、治療と進む診療の流れをきちんと押さえているところであろう。

また、例えば統合失調症の項を見ると、DSM-IV-TR の診断基準が広く受け入れられているとしながらも、その疾患概念の歴史とともにクレペリンの診断基準とブロイラーの症状基準、シュナイダーの診断基準を表示して、それらを定式化した基準であり有用なものであると位置付けている。こうした時代的な変遷を重視しながら記述していることが本書の内容を厚くしている。著者は実践的であることを目指しているようであるが、やはりハンドブックで網羅的であることは否めず、むしろそこが本書の特徴のように思われる。医局の机に置いて疑問があれば気軽に本書で調べ、もっと詳細を知りたいければ CTP を繙くというのが一般的な使い方であろう。世界中で好評を博し、日本でも広く使われているのも、やはり本書の背後に精神医学の百科事典と言われる CTP があるからにほかならない。さらに第28章の法的・倫理的問題には精神医学と刑事法の項もあり、医療放棄、守秘義務や無診察診断などに関する Q&A も掲載されている。

精神科医はもちろん、他科の臨床医、医学生、精神保健福祉関係の専門家など幅広い関連領域の方々に、精神医学の標準的な知識を満載した CTP の手引きとしてぜひ推奨したい。

(東北福祉大学精神医学講座)

●A5 488頁 2003 本体6,800円 メディカル・サイエンス・インターナショナル刊